

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22243040

研究課題名(和文) ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究

研究課題名(英文) Research on Evaluation of Social Work and Framing the Evaluation Manuals

研究代表者

白澤 政和 (Shirasawa, Masakazu)

桜美林大学・自然科学系・教授

研究者番号：20094477

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,500,000円、(間接経費) 8,250,000円

研究成果の概要(和文)：障害者、学校での児童、患者の3領域別対象をもとに、ソーシャルワーク実践およびソーシャルワークプログラムの評価に関する研究を行った。初年度はソーシャルワーク実践の評価となる基準や内容を質的研究でもって明らかにし、二年次は量的な調査により評価の、評価の軸をさらに明らかにした。三年次はステークホルダーも加えてソーシャルワークのプログラム評価を質的に、四年次は量的に研究した。以上をもとに、ソーシャルワーク実践とソーシャルワークプログラムの評価マニュアルを作成したが、3領域別での実践はプロセス評価やアウトカム評価が共通しており、プログラム評価もソーシャルワーカーとステークホルダー間で大きな差がなかった。

研究成果の概要(英文)：We clarified standards and contents of social work evaluation from individual practice by social workers and social work programs in the 3 fields of care management centers for disabled persons, school social work and social work at hospital. Evaluation of both social work practice and social work program are analyzed by qualitative and quantitative researches. After this analysis, we published both evaluation manuals of practice and program. From the researches, we got summary that process and outcome evaluations of social work practices are similar and evaluations of social work programs between social workers and stakeholders are not difference among 3 fields.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク 社会福祉援助技術

1. 研究開始当初の背景

ソーシャルワークには個々の対象者に対する実践と、その実践を可能にするプログラムから成り立っており、両者は相互に関連し合っている。しかしながら、ソーシャルワークの実勢についても、またソーシャルワークのプログラムについても評価の内容や基準が必ずしも確立していない。そのことが、社会の様々な領域からソーシャルワークに対するニーズがあるにも関わらず、それらを充足すべくソーシャルワーカーが十分に配置されていない一因になっていると考えられる。結果的に、評価研究の不十分さがソーシャルワークの発展を遅らせてきており、評価する内容や基準を明らかにすることが求められている。

2. 研究の目的

そのため、ソーシャルワークが展開している3つの領域である障害者領域(相談支援センター)、児童領域(学校)、患者領域(病院)において、ソーシャルワーク実践とソーシャルワークプログラムの両方の評価の枠組みを提示し、それをマニュアルにすることを目的にした。ひいては、領域を超えて共通するソーシャルワーク評価内容と領域別で異なる評価内容を示すことにある。

3. 研究の方法

初年度は、ソーシャルワークの評価となる基準や内容について質的な研究を行った。具体的には、身体障害者や知的障害者、精神障害者、患者、小学生などの児童を対象にしたソーシャルワーカーについて、具体的なソーシャルワーカーの実践を質的に分析した。

二年度は、質的調査で明らかになったソーシャルワーク評価の基準や内容をもとにして、量的調査を実施し、評価の基準や内容に加えて、評価の軸を明らかにした。それらを障害者相談支援事業所相談員、医療ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカーを対象にして実施した。それぞれの調査結果から、自らのソーシャルワーク業務での評価の基準や内容について明らかにした。さらに、それぞれの領域でのソーシャルワーク評価の共通点と相違点をもとにして、核になるソーシャルワーク評価の基準や内容と対象領域別の補完的な評価の基準や内容について検討した。

三年度は、ソーシャルワークのプログラム自体の評価を行った。具体的には、ソーシャルワーカーが実施する障害領域の相談支援業務、子ども領域でのスクールソーシャルワーク業務、患者領域での退院支援業務について、ソーシャルワークプログラムの機能についてソーシャルワーカーとステークホルダー間での評価を質的に調査し、両者の共通点と相違点を明らかにした。

最終年度は障害者、児童(学校)、患者の3領域別で、それぞれのソーシャルワークの

プログラム評価に関してソーシャルワーカーとステークホルダーを対象に量的研究を実施し、両者の調査結果をもとに、プログラム評価マニュアルを作成した。

4. 研究成果

いずれのソーシャルワーク領域においても、ソーシャルワーク実践は個人・家族・組織内の他のスタッフ・地域社会・社会制度までを変化・維持させることが目的であり、それが評価されなければならないことが明らかになった。ただ、地域社会や社会への働きかけは現実には弱い、個人への支援を超えた幅広いことの評価をソーシャルワーカーは求めていることが分かった。また、自らのソーシャルワーク業務での評価の基準や内容についても明らかになった。

児童(学校)領域では、スクールソーシャルワーカーを対象に全国調査結果の量的調査から効果的な援助要素の検討を行った。また、実務者参画型ワークショップを実施し、実践家が重視する効果的援助要素について質的な分析を行った。最終的に、自治体のスクールソーシャルワーカーのグループ討議結果を加えて、効果的なスクールソーシャルワーカーの配置プログラムを提示した。

障害領域では、障害者相談支援事業所の管理者へのインタビュー調査から、相談支援事業プログラムの構造評価、プロセス評価、アウトカム評価を行った。一方、管理者の量的調査については、3つの具体的な評価内容について、重要度と実際のギャップを明らかにし、相談支援業務のプログラム評価マニュアルを検討した。

患者領域では、退院支援に焦点を絞り、共働者・管理運営部門といったステークホルダーのインタビュー調査および医療ソーシャルワーカー、看護部門、管理運営部門を対象にした量的調査を行い、ソーシャルワーク実践項目の自己評価と他者評価のギャップを明らかにした。これらの結果をもとに、「MSWの退院支援実践自己評価マニュアル」を作成した。

3つの領域別でのソーシャルワーク実践でのプログラム評価の内容は、構造面、プロセス3領域別での実践はプロセス評価やアウトカム評価が共通しており、プログラム評価もソーシャルワーカーとステークホルダー間で大きな差がなかった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計18件)

1. 山野則子・梅田直美・厨子健一「効果的スクールソーシャルワーカー配置プログラム構築に向けた全国調査 効果的プログラム要素の実施状況、および効果(アウトカム)との相関分析」日本社会福祉学会社会福祉学第54巻第4号(No.108) p82-97、2014年3月、査読有

2. 高山恵理子、小原眞知子(2014)「医療機関における退院支援に関わるソーシャルワーク部門の位置づけと看護師との協働状況」『医療と福祉』47(1), pp.60-66. 査読有
 3. 厨子健一・山野則子「スーパービジョン体制がスクールソーシャルワーカーの専門性や効果に与える影響」子ども家庭福祉学第13号、p25-33、2013年12月、査読有
 4. 梅田直美・山野則子「子ども家庭福祉分野における専門職間関連教育の可能性 教員免許更新講習「学校コラボレーション講座」の効果測定調査結果から」子ども家庭福祉学会第13号、p77-87、2013年12月、査読有
 5. 横井葉子・酒井滋子・厨子健一・木崎恵理子・山野則子「スクールソーシャルワークの効果的援助要素に関する全国実態」学校ソーシャルワーク学会第8号、p68-80、2013年6月、日本学校ソーシャルワーク学会、査読有
 6. 三沢徳枝・山野則子「子ども虐待の予防・対応の現状と支援 市区町村への調査結果から」学校ソーシャルワーク学会第8号、p47-55、2013年6月、日本学校ソーシャルワーク学会、査読有
 7. 周防美智子・小山悟士・横井葉子・山野則子「スクールソーシャルワーカーの効果の検討 スクールソーシャルワーカー配置校における教員のタイムスタディ調査から」日本学校ソーシャルワーク学会第8号、p15-24、2013年6月、日本学校ソーシャルワーク学会、査読有
 8. 山口麻衣・高山恵理子・小原眞知子・高瀬幸子(2013)「医療ソーシャルワーカーの退院支援実践の評価」『医療社会福祉研究』21. pp.127~140、査読有
 9. 小澤温：今、改めて「障害」と「支援」を考える，保健医療社会学論集，24(2)，1-4，2013、査読無
 10. 小澤温：知的障害の認定に関する最近の話題，ノーマライゼーション，33(11)，20-23，2013、査読無
 11. 白澤政和：「ケアにおける分断化の諸相とそれへの対応」『現代の社会病理』28、pp.3~19、2013、査読無
 12. 小澤温、障害者制度改革の動向と課題：障害者権利条約の批准に向けて、日本生活支援工学会誌、査読有、12巻1号、2012、pp.13~18
 13. 小澤温、支給決定と相談支援：障害者自立支援法の改正と障害者総合支援法に向けての課題、発達障害研究、査読有、34巻3号、2012、pp.14~21
 14. 鄭尚海・岡田進一・白澤政和、認知症高齢者の行動・心理症状(BPSD)を改善するための支援の方法 - 特別養護老人ホームの介護職員による改善事例に対する質的分析をもとに -、介護福祉学、査読有、18(1)、2011、pp.38~47
 15. 鄭尚海・岡田進一・白澤政和他、認知症高齢者の行動・心理症状(BPSD)を改善するための支援の視点 - 特別養護老人ホームの介護職員による改善事例に対する質的分析をもとに -、生活科学研究誌、査読有、Vol.9、2011、pp.85~94
 16. 畑亮輔・岡田進一・白澤政和、居宅介護支援事業所の介護支援専門員による家族へのアセスメントと家族介護者支援との関連、介護福祉学、査読有、18(2)、2011、pp.112~121
 17. 高山恵理子、病院におけるソーシャルワーカーによる退院支援プログラム策定の試み：病院組織・院内スタッフに対する実践に焦点をあてて、上智大学社会福祉研究、査読無、36、2011、pp.1~19
 18. 神部智司・竹本与志人・岡田進一・白澤政和、特別養護老人ホーム入居者の施設サービス満足度の因子構造に関する検討、『介護福祉学』査読有、Vol.17-1、2010、pp.5-15
- 〔学会発表〕(計31件)
1. 横井葉子・山野則子「スクールソーシャルワーカーが果たす機能 - 実践家が重視する効果的援助要素の分析を通じて -」日本社会福祉学会第61回大会、於北星学園大学、2013年10月
 2. 山野則子・横井葉子「全国調査における教育委員会とスクールソーシャルワーカーの実態 アウトカム指標を用いて」日本学校ソーシャルワーク学会第8回大会、福島大学、2013年7月
 3. 横井葉子・山野則子「実践家参画によるスクールソーシャルワークの効果的援助要素の構築 教育委員会による事業設計(組織計画)に焦点を当てて」日本学校ソーシャルワーク学会第8回大会、於福島大学、2013年7月
 4. 「日本の社会福祉サービスの未来と展望」白澤政和、2013 International Social Work・Welfare Forum of Korea, USA and Japan, 2013.6.26, Soul, Korea, 2013.
 5. "User Attributes that influence the degradation of QOL of the elderly long-term care insurance users" K. Masuda, M. Shirasawa, R. Hata, S. Yoshie, H. Shiraki, K. Yamada, H. Takasuna, A. Yonezawa, K. Kishida, Y. Takase, K. Tanno, The 20th IAGG Congress of Gerontology and Geriatrics, June 23~27, pp.674, Seoul, Korea, 2013
 6. "Influence of dementia on changes of condition of the elderly who require everyday life assistance" R. Hata, M. Shirasawa, K. Masuda, S. Yoshie, H. Shiraki, K. Yamada, H. Takasuna, A. Yonezawa, K. Kishida, Y. Takase, K. Tanno, The 20th IAGG Congress of

- Gerontology and Geriatrics, June23 ~ 27, pp.676, Seoul, Korea, 2013
7. "A picture and problems of the confirmation of client's safety by care managers following the Tunami disaster" N. Okada, M. Shirasawa, The 20th IAGG Congress of Gerontology and Geriatrics, June23 ~ 27, pp.839, Seoul, Korea, 2013
 8. 「ケアマネジメント実践による要介護者等の状況変化の分析 縦断的調査結果をもとに」畑亮輔・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.79、大阪、2013 年
 9. 「障害者の QOL を高める構成要素について 相談支援専門員の実践に焦点をあてて」橋本卓也・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.104、大阪、2013 年
 10. 「相談支援専門員の実践がサービス利用者に及ぼす効果の検証について」森地徹・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.105、大阪、2013 年
 11. 「介護支援専門員のスーパービジョン実践としての実習型研修の経験と普及に向けた提案」吉江悟・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.135、大阪、2013 年
 12. 「ケアマネジャーが捉える要介護高齢者等の状況変化の分析 縦断的調査結果をもとに」米澤麻子・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.161、大阪、2013 年
 13. 「ストレングス視点を取り入れた研修プログラムの効果 有料老人ホーム利用者の情報把握と活用への影響に焦点をあてて」筒井沙耶・金原敬子・白澤政和、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.168、大阪、2013 年
 14. 「介護支援専門員の捉える利用者の在宅生活に対する自信とその関連要因 介護支援専門員に対するパネル調査の結果をもとに」増田和高・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.174、大阪、2013 年
 15. 「韓国におけるケアマネジメント利用者のエンパワメント過程 社会福祉士へのインタビュー調査から」裴孝承・白澤政和他、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.179、大阪、2013 年
 16. 「東日本大震災における居宅介護支援事業所の後方支援の実態と課題 岩手県・宮城県調査での沿岸部と内陸部の比較をもとに」岡田直人・白澤政和、『日本ケアマネジメント学会第 12 回研究大会抄録集』2013.6.5 ~ 6、日本ケアマネジメント学会、pp.193、大阪、2013 年
 17. 山野則子「全国調査データ結果分析を用いた実践家参画型ワークショップによる効果的援助要素の構築方法」日本評価学会春季第 10 回全国大会 2013 年 5 月、東京
 18. "An Exploratory Study on Time-Consuming Work and Psychological State of Senior Care Managers in Japan" Xiujuan Yu, Masakazu Shirasawa: 39th Association for Gerontology in Higher Education Annual Meeting & Educational Leadership Conference, Florida, USA, 2013.2.28 ~ 3.3, 2013
 19. 清水由香・森地徹・與那嶺司・橋本卓也・樽井康彦、小澤温・白澤政和：「障害福祉領域のケアマネジメント効果評価に関する研究 介護保険利用者との比較から」『12 回日本ケアマネジメント学会研究大会抄録集』p.189、大阪(2013)。
 20. 白澤政和、社会福祉士養成課程の経緯と課題、日本社会福祉教育学会(招待講演) 2012 年 8 月 25 ~ 26 日、立正大学
 21. 高山恵理子、小原真知子、山口麻衣、医療機関における退院支援に関するソーシャルワーク・プログラム策定の試み：院内スタッフ・機関に対する働きかけに焦点化して、日本社会福祉学会第 59 回大会、2011.10.8、淑徳大学
 22. 小原真知子、高山恵理子、山口麻衣、医療機関における退院支援に関するソーシャルワーク・プログラム策定の試み：患者家族に対する働きかけに焦点化して、日本社会福祉学会第 59 回大会、2011.10.8、淑徳大学
 23. 山野則子・周防美智子・厨子健一・山口倫子スクールソーシャルワーク実践における評価に関する研究 - プログラム理論に基づいて -、日本社会福祉学会第 59 回大会、2011.10.8、淑徳大学
 24. 高山恵理子、小原真知子、山口麻衣、高瀬幸子、ソーシャルワーク退院支援のプログラム化の試み：メゾ・レベルからの検討、日本医療社会福祉学会第 21 回大会、2011.9.23、同志社大学
 25. 小原真知子、高山恵理子、山口麻衣、高瀬幸子、ソーシャルワーク退院支援のプログラム化の試み：ミクロ・レベルからの検討、日本医療社会福祉学会第 21 回大会、2011.9.23、同志社大学

26. 周防美智子・厨子健一・山野則子、スクールソーシャルワーカーの評価に関する研究 - 3つの連携プログラムに焦点づけて、第21回アジア太平洋ソーシャルワーク会議、2011.7.15、早稲田大学
27. Bae, H., Okada, S., Shirasawa, M. The Current Difficulties in Care Management Practice for the Elderly in Japan, 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 2011.7.15, Tokyo, JAPAN
28. Yu, X., Bae, H., Okada, S., Shirasawa, M. Characteristics of Time-Consuming Cases in Care Management Practice of Japan, 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 2011.7.15, Tokyo, JAPAN
29. 斐孝承・白澤政和他、ケアマネジメントの所要時間に関連する諸要因に関する分析 利用者の状況と基本属性を中心に、第15回日本在宅ケア学会学術集会、2011年3月20日、広島
30. 篠本直子・白澤政和他、介護支援専門員が認識する「最もケアマネジメントに時間がかかる利用者」の特徴 利用者の基本属性と状況の記述統計を中心に、第15回日本在宅ケア学会学術集会、2011年3月20日、広島
31. 南後仁香・白澤政和他、ネットワーク構築のための実践のプロセスに関する研究 社会福祉協議会のコミュニティワーカーに対するインタビュー調査をもとに、日本社会福祉学会第58回秋季大会、2010年10月、名古屋

〔図書〕(計7件)

1. 小澤温:「障害者総合支援法への移行経過と新法の目指すもの」、発達障害白書編集委員会編、「発達障害白書2014年版」、明石書店、pp.3-7、(2013)、pp1~253
2. 小澤温、金子書房、発達障害支援ハンドブック、2012、pp.1~318
3. 白澤政和、勁草書房、東日本大震災と知の役割、2012、pp.1~305
4. 小澤温、建帛社、生活と福祉 - 家庭、地域、社会・組織の福祉的機能と生活支援、2011、pp.1~149
5. 山野則子・野田正人・半羽利美佳、ミネルヴァ書房、よくわかるスクールソーシャルワーク、2012、pp.1~210
6. 白澤政和、ミネルヴァ書房、ソーシャルワークの理論と方法、2010、pp.1~320
7. 白澤政和、ミネルヴァ書房、ソーシャルワークの理論と方法、2010、pp.1~258

6. 研究組織

(1)研究代表者

白澤 政和 (SHIRASAWA, Masakazu)
桜美林大学・自然科学系・教授
研究者番号: 20094477

(2)研究分担者

(3)連携研究者

山野 則子 (YAMANO, Noriko)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 50342217

小澤 温 (OZAWA, Atsushi)
筑波大学・人間系・教授
研究者番号: 00211821

清水 由香 (SHIMIZU, Yuka)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・助教
研究者番号: 90336793

與那嶺 司 (YONAMINE, Tsukasa)
神戸女学院大学・文学部・准教授
研究者番号: 90341031

橋本 卓也 (HASHIMOTO, Takuya)
大阪保健医療大学・保健医療学部・講師
研究者番号: 70559187

樽井 康彦 (TARUI, Yasuhiko)
龍谷大学・社会学部・講師
研究者番号: 80551613

森地 徹 (MORITI, Toru)
筑波大学・人間系・助教
研究者番号: 50439022

小原 真知子 (OHARA, Machiko)
東海大学・健康科学部・教授
研究者番号: 50330791

高山 恵理子 (TAKAYAMA, Eriko)
上智大学・総合人間科学部・准教授
研究者番号: 90329011

山口 麻衣 (YAMAGUCHI, Mai)
ルーテル学院大学・総合人間学部・准教授
研究者番号: 30425342

大島 巖 (OSHIMA, Iwao)
日本社会事業大学・福祉援助学科・教授
研究者番号: 20194136

岡田 進一 (OKADA, Shinichi)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授
研究者番号: 20291601